

LaTeX と HTML による論文・報告作成の基礎

岩熊哲夫

2000年7月2日 ([-30]5051.49)

目次

1	文書の記述法	2
1.1	表現と中身	2
1.2	論文・報告	2
1.3	記述言語	2
1.4	文章の記述法	2
1.5	よくある間違い等	3
2	LaTeX と HTML の基本的な設定部分	3
2.1	基本的な書き出しと最終行	3
2.2	文書の表示・印刷	4
3	本文本体の記述法	4
3.1	論理的文章	4
3.2	文書の題目周辺	5
3.3	節建て	5
3.4	段落	5
3.5	表題付きのパラグラフ	6
3.6	引用	6
3.7	脚注	7
3.8	相互参照	7
3.8.1	LaTeX の相互参照	7
3.8.2	HTML のアンカー	8
3.9	箇条書き	8
4	レイアウトや文字飾り	10
4.1	位置決め	10
4.2	コメント	10
4.3	文字飾り (強調のため)	10
4.4	文字サイズ	11
4.5	水平区分け線	11
5	数式	12
6	図表・写真	13
6.1	LaTeX のフロート	13
6.2	HTML の場合	14
6.3	表そのもの	14
7	参考文献リスト	15
8	目次	15
9	音について	15
10	JavaScript について	16

1 文書の記述法

1.1 表現と中身

- レイアウト構成
 - 単なる見え方である。例えばセンタリングや細かいフォント指定
 - 論理の流れを示す補助にはなるが本質ではない
 - 伝えたい内容や説得力とは直接の関係は無い
 - 極端化したものはポスター
- 論理構造
 - 内容の意味や段落間の意味的關係で、章建てや箇条書き
 - 文書を書く上で最も重要で本質的な点
 - 見え方が伝えたい内容を左右しない。文章そのものの説得力のために必要
 - 一種の極端は詩や短歌

1.2 論文・報告

最も重要なのは「文書構成」「内容の論理」であって、レイアウトはたいていは定型である。ウェブ上のページであっても、何か伝えたい・提供したいというのであれば、内容の論理を重視した構成になっている必要がある。すべてがポスター様であれば、独り善がりになり易い。

1.3 記述言語

- (a) ワープロ：WYSIWYG (What you see is what you get.) 方式の文書整形ソフト。保存ファイル中はマークアップ方式情報。利用者が組版の知識を有していないと駄目な出力になる。
- (b) お絵描き：単なる整形；ポスター作成。論理より直感（視覚）。
- (c) Hyper Text Markup Language: SGML (Standard Generalized Markup Language) と同様、マークアップ言語。HTML はネットワークでの使用が前提のようだが、論理的記述もできる。
- (d) \TeX : 組版ソフト；テキスト整形のみではない。内容の論理構成に従って記述する言語。 \LaTeX は定型文書用。ワープロと違ってレイアウト等の余計な事を考える必要が全く無いので、文書の論理構成だけに精神を集中できる。そういう意味で論理的記述に向いている。現在のバージョンは 3.14159 で、完成したら π になる。フォントを作るソフトの **Metafont** は 2.7182 で、こちらも完成したら e になる。
- (e) プリンタ記述言語：PostScript や LIPS で通常はページ記述言語と呼ばれ、出力の頁毎のレイアウトのみを記述する。プリンタ制御用の言語。

1.4 文章の記述法

細かい点も含めて義務教育の「国語」では習っていないものと考え、独学する必要がある。最も分かりやすい文献（教科書）は、『日本語の作文技術（本多勝一著：朝日新聞社刊朝日文庫）』の特に p.28 以降を勉強するとよい。さらに、多くの良い本（小説は駄目）を読むこと。

1.5 よくある間違い等

私が気になる所を列挙しておく。

- 横書きでの句読点は、全角のコンマとピリオド（土木学会），あるいは全角のコンマと句点（文部省）を用いる。ただし表示ソフトに邪悪な「MS明朝P」等を設定してあると正しくは表示されない。
- 中黒「・」なども原則全角ドリである。
- 括弧始めと終わりがあるように、引用マークもきちんと“このようなもの”や‘this type of marks’あるいは“a double quotation mark”を用いる。これも表示ソフトに邪悪な「MS明朝P」等を設定してあると正しくは表示されない。「”」というマークは『インチ記号』であり、それを引用に使うのはインチキである。
- 英数字は半角とする。括弧は、半角を囲むときは（半角の括弧記号）を、全角を囲むときは（全角の括弧記号）を用いる。
- 句読点やコロンの(:)・セミコロン(;)等の区切り文字は文頭には決して置かない。たとえそれが箇条書きであったとしても文頭には置かない。
- 区切り文字はすぐ前の文字との間にスペースを入れず、全半角共に必ず密着させる。また半角の区切り文字の場合は、区切り文字のすぐ後には半角のスペースを置く。
- 区切り文字と引用記号の順番は、英語の場合“this is quoted sentence,” and のようになる。

2 \LaTeX と HTML の基本的な設定部分

2.1 基本的な書き出しと最終行

書き出しには次のような「おまじない」が必要。

```
\documentclass{jarticle}
\title{題目}
\author{筆者名}
\date{日付}
\begin{document}
```

```
<html>
<head>
  <title> ページのタイトル</title>
</head>
<body>
```

となる。これで文書本体の書き出しにつながる。HTML の場合もタイトルを略すのはよくない。 \LaTeX の場合に基本的なスタイルとして論文スタイル `jarticle` を用いている。他に報告・本スタイル `jreport`, `jbook` がある。この `\begin{document}` の前の部分をプレアンブルと呼ぶが、ここはオプションとして利用するスタイルファイル等の指定にも用いる。例えばこの文章のように `boxedminipage` という特殊な環境を用いる場合や、PostScript の図を読み込むためなどに

```
\usepackage{boxedminipage}
\usepackage[varg]{txfonts}
\usepackage[dvips]{graphicx}
```

のような行を並べる。具体的な指定の仕方は、それぞれのスタイルファイルのドキュメントを読むこと。全部の文章が終わった最後の最後には

```
\end{document}
```

```
<address>  
何の某 2000.1.1<br>  
daresore@hoge.tohoku.ac.jp  
</address>  
</body>  
</html>
```

となる。HTML の場合には、署名と作成日を明確にしておくことが望ましい。

以上で明らかのように、 \LaTeX では `\begin` で始まった環境は `\end` で終わり、HTML では原則として `<tag>` で始まったものが `</tag>` で終わっている。この組み合わせが順番通り並んでいないと、期待した出力は得られないので注意する。

2.2 文書の表示・印刷

\LaTeX : 組版ソフト \TeX でコンパイルしてできる DVI ファイルを、いわゆる `dviware` で表示・印刷する。ちなみに DVI とは `device independent` という意味で一種のページ記述言語（バイナリ）である。 \TeX そのものはどんなプラットフォーム上でもソフトが存在する `portable` なもので、`dviware` も各種・各プラットフォーム上で整備されている。また `PostScript` にも変換できる。DVI ファイルはページ記述言語であるから、どこで出力しても同じ出力になる。

HTML: ブラウザで表示・印刷する。出力結果はブラウザの設定等で統一されないことが前提であることに注意する。そういった意味でも、HTML は論理記述のための言語と考えておいた方がいい（画像を多用しない限り）。

ワープロ: ワープロは画面で見たままのが出力される (`WYSIWYG: What you see is what you get.`) から、組版の規則をある程度知っていないと醜い出力になってしまう。またソースファイルを別の環境で読み込んだ場合、フォント設定等の関係で、必ずしも同じ出力が得られるとは限らないこともあるので注意。日本語対応のワープロで作成した英文文書ファイルが、外国では表示すらできない場合もあるらしい。

3 本文本体の記述法

3.1 論理的な文章

論文・報告というのは論理的な文章であればよく、明確に記述され誤解が生じない限り、美的である必要もないし、感情に訴えるものである必要もない。

文節: ひとつの句点を持つ文章基本単位で、ひとつの事柄を、複数の読点で論理を明確にして記述する構造。ひとつのことを述べる毎に文節を改めるのが誤解を生まないが、説得力やインパクトのために工夫する必要もある。

段落: 複数の文節ででき、あるひとつの論理を示す最小単位。ひとつの段落ではひとつの事だけについて書く。

節: 複数の段落を論理的に並べ、ある論理的帰結なりまとまった考えを主張する構造。その節が何のためにあるのかが明確になるようにする。

文書: 複数の節が論理的に並べられ、ひとつ以上の最終的な結論・主張を示すもの。

と考えるとよい.

特に論文・報告のように科学的・工学的主張を述べる文書の場合、「起承転結」等の構成をうまく考え、節毎にひとつの閉じた論理を構成させ、節の並べ方と内容によって、ひとつの文書で閉じた論理を構成するようにする.

3.2 文書の題目周辺

まずは題目部分になるが

```
\maketitle  
[空行]
```

```
<h1> タイトル</h1>  
<big> だれそれ</big><br>  
<strong> いつの記述</strong><p>
```

となる. HTML の場合のは例えばの話であるが, 上の「おまじない」の `<title>` 部分は, 本文中では反映されないで, このようにヘッダタグで再度記述する必要がある.

3.3 節建て

ここから本文が始まるが, 節建てをして始める

```
\section{第一節のタイトル}  
[空行]  
さて, ここでは・・・  
[空行]  
\subsection{第一節の小節タイトル}  
[空行]  
ところで・・・
```

```
<h2> 第一節のタイトル</h2>  
さて, ここでは・・・  
<h3> 第一節の小節タイトル</h3>  
ところで・・・
```

となる. HTML の場合, ここではページの題目にヘッダタグの `<h1>` を使っているため, 節に `<h2>` を用いている.

節は次のようにして順番を付ける.

```
\section{節タイトル}  
\subsection{小節タイトル}  
\subsubsection{項タイトル}
```

```
<h2> 節タイトル</h2>  
<h3> 小節タイトル</h3>  
<h4> 項タイトル</h4>
```

\LaTeX では自動的に節番号が振られる. この例の HTML の場合では前述のように, ページのタイトルに `<h1>` を使っているため, このように `<h2>` から下を用いている.

また, \LaTeX の報告・本スタイル `jreport`, `jbook` の場合には, 節の上に『章 `\chapter{...}`』が使え, さらにその上に『部 `\part{...}`』が使える.

3.4 段落

段落は次のような文節のまとまりとする.


```
\begin{quote}
...
\end{quote}
```

```
<blockquote>
...
</blockquote>
```

となる。L^AT_EX では `quotation` 環境もある。ただし HTML の場合には、これも文章表現のレイアウトに使うことで、見出しを効果的にすることもできる。例えば

```
<b>見出し</b>
<blockquote>
  本文をここに書く<br>
  字下げして次<p>
  次の関連話題の段落・・・
</blockquote>
```

見出し

```
  本文をここに書く
    字下げして次

  次の関連話題の段落・・・
```

のようなこともできる。

3.7 脚注

L^AT_EX の場合は `\footnote{...}` を用いて脚注を入れることは可能であるが、論文・報告では原則として用いない方がよい。HTML には脚注そのものは無い。

3.8 相互参照

「相互参照」は L^AT_EX の場合の呼び名であり、それに相当する HTML タグとして「アンカー・タグ」を説明する。

3.8.1 L^AT_EX の相互参照

例えば節番号を文中で引用することがある。また式を引用することがある。そういった場合には

- 引用される側には `\label{name}` でラベルを付ける
- 引用する側では `\ref{name}` でラベルを引用する

ことにしておいて、2 回コンパイルをすればきちんと相互参照ができる。例えば

```
第 \ref{sec:xref} 節で展開された
\begin{equation}
  f(x)=\sin x \label{eq:example}
\end{equation}
という式 (\ref{eq:example}) において
```

```
第3.8節で展開された

$$f(x) = \sin x \tag{1}$$

という式 (1) において
```

という風になる。

3.8.2 HTML のアンカー

HTML の場合の相互参照は、引用される側もする側もアンカー・タグを付す。例えば

```
例えば<a name="xref">ここを引用する</a>として  
文章がつつらつら続いていて  
.....  
ある所で<a href="#xref">上で示したように</a>という  
引用をする
```

のようにする。これで href した部分をブラウザ上でクリックすれば、上の name を定義した部分にジャンプすることになる。

もちろん HTML で最もよく用いられるのは、他のリソースへのアンカーである。例えば

```
<a href="http://www.hoge.ac.jp/hoge.html">このページでは</a>・・・
```

という風に使うと、他のリソースとのリンクができる。またページ最後の <address> 部分の自分のメール ID の部分も

```
<a href="mailto:hoge@hoge.tohoku.ac.jp">hoge@hoge.tohoku.ac.jp</a>
```

としておくこともできる。

もし他のリソースのページ途中のある指定箇所とリンクするなら

```
<a href="./hokano.html#dokosoko">何のページのどこそこでは</a>・・・
```

のようにする。

3.9 箇条書き

単純な箇条書き、すなわち

- 一つ目の箇条書きの行
- これが二つ目
 - 入れ子の最初
 - 入れ子の最後
- 最後の箇条になります

の場合には

```
\begin{itemize}
\item 一つ目の箇条書きの行
\item これが二つ目
  \begin{itemize}
  \item 入れ子の最初
  \item 入れ子の最後
  \end{itemize}
\item 最後の箇条になります
\end{itemize}
```

```
<ul>
<li> 一つ目の箇条書きの行
<li> これが二つ目
  <ul>
  <li> 入れ子の最初
  <li> 入れ子の最後
  </ul>
<li> 最後の箇条になります
</ul>
```

となる。記号は変えられる。

順番の数字付きの箇条書き，すなわち

1. 一つ目の箇条書きの行
2. これが二つ目
3. 最後の箇条になります

の場合には

```
\begin{enumerate}
\item 一つ目の箇条書きの行
\item これが二つ目 \label{en:2nd}
\item 最後の箇条になります
\end{enumerate}
```

```
<ol>
<li> 一つ目の箇条書きの行
<li> これが二つ目
<li> 最後の箇条になります
</ol>
```

となる。開始番号や表示は変えられる。L^AT_EX の場合には、箇条の数字（上例の二つ目の箇条の`\label`）が相互参照の対象になる。

見出し付きの箇条書き，すなわち

- あれ： 一つ目の箇条書きの行
これ： これが二つ目
それ： 最後の箇条になります

の場合には

```
\begin{description}
\item[あれ:] 一つ目の箇条書きの行
\item[これ:] これが二つ目
\item[それ:] 最後の箇条になります
\end{description}
```

```
<dl>
<dt> あれ：
<dd> 一つ目の箇条書きの行
<dt> これ：
<dd> これが二つ目
<dt> それ：
<dd> 最後の箇条になります
</dl>
```

となる。HTML の場合は見出しと箇条の間は改行されてしまうが、見出しにするものが2文字程度以下の場合には、`<dl compact>` を用いると改行されない。

4 レイアウトや文字飾り

レイアウトや文字飾りは、特に論文や報告では可能な限り使わない。論文や報告は内容を論理的に記述して伝えるためのものであり、見た目で情報を伝えるものではない。

4.1 位置決め

センタリングの場合には

```
\begin{center}
最初の行 \\
次の行
\end{center}
```

```
<center>
最初の行<br>
次の行
</center>
```

となる。

左右合わせの場合には

```
\begin{flushleft}
最初の行 \\
次の行
\end{flushleft}
```

```
<p align="left">
最初の行<br>
次の行
</p>
```

となる。右合わせの場合には上記の **left** が **right** になる。この HTML の場合の `</p>` は省略できない。改行を入れた文をそのままのイメージで出力する場合には

```
\begin{verbatim}
ここに書く (LATEX 命令無効)
\end{verbatim}
```

```
<pre>
ここに書く (タグ有効)
</pre>
```

となる。

4.2 コメント

表示されないコメントをソースファイルに入れておくことができる。

```
% %マークで始まる行
```

```
<!-- の記号から右の記号まで -->
```

という行がコンパイルされない、あるいは表示されないコメント行になる。ただし、これを多用すると、見通しの悪いソースになる。可能な限りコンパクトに、かつ、必要な部分にのみ用いる。

4.3 文字飾り (強調のため)

通常、2種類のフォントで十分である。それ以上必要なら、論理的に異様なことをしていると考えよう。また重複した飾り、例えばゴシックで斜体とか、下線付きのイタリック等も節操が無いのでやめる。ポスターではなく、論文・報告を作成していることを忘れない。

イタリックの場合には

```
{\em ...}  
{\it ...}
```

```
<em>...</em>  
<i>...</i>
```

となる. 'em'の方は「強調」という意味で, 論理的な制御と呼ばれる. HTMLの場合もこちらが好ましい.
ゴシックの場合には

```
{\bf ...}
```

```
<strong>...</strong>  
<b>.....</b>
```

となる. が論理的.
下線を引くの場合には

```
\underline{....}
```

```
<u>...</u>
```

となる. \LaTeX の場合, 2行以上にわたる下線は普通はできない.
等間隔文字(タイプライター様の)を用いる場合には

```
{\tt ...}
```

```
<tt>...</tt>
```

となる.

4.4 文字サイズ

論文・報告で文字サイズをどうこうする必要は滅多に無い. ただHTMLの場合は, メリハリを付けるのに多少の工夫は必要だろう. 基本的には

```
<big>...</big> や <small>...</small>
```

で十分であり, 等を多用するのは, ポスター様のページ以外のページでは好ましくない.

4.5 水平区分け線

段落を強調する意味で用いることができそうだ.

```

前段落
\medskip
\hrule
\medskip
次段落

```

```

前段落
</p>
<hr>
<p>
次段落

```

のようになる。

5 数式

\LaTeX での数式表現については別途参考書を読むこと。HTML ではまだ満足なものがないが、 \LaTeX で書いたソースを HTML 化するある種の変換ソフトでは、式の部分だけを GIF 画像にして貼り込んでいる。HTML で簡単に胡麻化するには `<pre>` を使う。

\LaTeX での基本的な部分を列挙しておく。

式番号付き： 基本的なもので、一行の式は

```

\begin{equation}
f(x)=\sin x \ \text{\label{eq:eq1}}
\end{equation}

```

$$f(x) = \sin x \tag{2}$$

という風になる。複数行になる場合には

```

\begin{eqnarray}
f(x) & = & \sin x \ \text{\label{eq:eqn1}} \\
g(x) & = & \int_0^{\infty} h(x) \\
& & \text{\, , \mbox{d} x \ \text{\label{eq:eqn2}}}
\end{eqnarray}

```

$$f(x) = \sin x \tag{3}$$

$$g(x) = \int_0^{\infty} h(x) dx \tag{4}$$

という風になる。ちょっと気にして欲しいのは、積分変数前の微分 ‘d’ が、数学斜体の ‘d’ ではないことである。つまり、変数としての ‘d’ と区別するために、積分変数前の微分記号は `\, , \mbox{d}` を用いてある。この `\, ,` は小さいスペーシングである。

式番号無し： 番号が要らない場合にはそれぞれ、`displaymath, eqnarray*` 環境で式を書けばよい。

複数行の場合の注意： 式が複数になった場合の二行目が「引き算」記号で始まるような場合、`\mbox{}` を必ず入れるようにする。これは演算子であることを区別するためである。

```

\begin{eqnarray}
f(x) & = & ax^3+b \\
& & - bx^2 \\
& & \mbox{ } - cx
\end{eqnarray}

```

$$f(x) = ax^3 + b \tag{5}$$

$$-bx^2 \tag{6}$$

$$-cx \tag{7}$$

という風になる。3行目が正しい。マイナス記号前後のスペース幅を比較して欲しい。



図 1: PostScript の図の例

本などの執筆で記号で式を参照したい： 本の執筆などで、非常に多くの式を扱うために式番号がかなりの数に及ぶものの、ある節だけでしか必要の無い、しかし本文中で引用したい式を表示したい場合がある。そういう場合には `plain-TEX` のコマンドを用い

<pre>\$\$ f(x) = ax^3+b \eqno{(*)} \$\$</pre>	$f(x) = ax^3 + b \quad (*)$
---	-----------------------------

とするとよい。

6 図表・写真

6.1 L_AT_EX のフロート

L_AT_EX の場合は、図表は `figure`, `table` 環境の中に配置する。この2つの環境はフロート（浮き）という分類になっており、ソースファイル中の位置とページのレイアウトの状態とを勘案して、複数のページ内をあちこち「漂う箱」と考えなければならない。つまり、どこに配置するかを決めるのは T_EX そのものであり、利用者は出力をプレビューしながら、欲しい位置に来るように調整する必要がある。これは大抵の出版物（辞典のようなものではなく）の場合、図表は上や下にまとめてあることを思い出せば納得がいくのではないだろうか。面倒ではあるが、文章の読みやすさを損ねないための工夫と考えて欲しい。

基本的には、段落と段落の間の空行の部分にこのフロートを置くことにし、それをプレビューしながら最初フロートから順に、適切な場所に出力されるように、ひとつひとつ配置していくしかない。論文の版下提出のような場合には、偶数ページを左に置いた見開きページに二ページ分が見渡せることを考え、その配置を工夫すると、最終的な論文の読みやすさが向上し、読者の理解も得られ易くなるだろう。もしかしたら査読もいい結果になるかもしれない。呵呵。

また、キャプションのセンタリングをする人が多いが、不要である。

```

\begin{figure}
\begin{center}
\includegraphics{hoge1.ps}\
\includegraphics{hoge2.ps}
\end{center}
\caption{キャプション}\label{fig:hoge}
\end{figure}

```

```

\begin{table}
\caption{実験値 \protect\cite{hogege}}
\label{tab:hogege}
\begin{center}
\begin{tabular}{|l||r|r|} \hline
.....
\end{tabular}
\end{center}
\end{table}

```

とするとよい。表のキャプションは表そのものの上に位置する。キャプション中で参考文献を引用したい場合には上記のように`\protect`を用いるとエラーが生じない。

6.2 HTML の場合

図表や画像データは、そのファイルを文中に指定することで貼り込む。例えば

```

```

といったようなタグを使う。alt は目の不自由な人等にとって重要なので省略しないようにする。

2 枚以上の図や写真を隙間無く横に並べたい場合がある。そういう場合には

```

<!-- コメントを入れて改行し
-->

```

のようになるといい。

HTML でもフロートのような利用法は可能である。せっかく窓（複数）システムを使っているのに、わざわざフレームを使ったり、何も工夫しないでリンクしたりするのはもったいない。例えば

```
<a target="photoswindow" href="./photos/hoge.gif"> この写真では</a>
```

とすると、photoswindow という名前付きの窓が開いて、そこに画像が出力される。もちろん直接画像ファイルではなく他の HTML ファイルでもいい。同様のことは JavaScript を使っても可能である。

6.3 表そのもの

LaTeX では tabular 環境を使う。HTML では、非常に面倒だが <table> の中に、<tr>, <th>, <td> 等を使って書く。

HTML の場合、止むを得ない場合を除いて、表でレイアウトしてはいけない。目の不自由な人にとってメリットが無いからである。

7 参考文献リスト

LaTeX での参考文献リストの標準的な書き方を示すに留める.

```
\begin{thebibliography}{99}
  \bibitem{hogehoge} Lastname, A. and Lastname, B.,
    \newblock \emph{J. Appl. Mech., JSCE,}
    \newblock Vol.4, pp.45-50, 2002.
  .....
\end{thebibliography}
```

となる. 上記 '99' というのは, 文献が 10 以上あることを示しているだけで, 文献リストの番号を表示するときの適正な幅を TeX に教えているだけである. 10 未満の場合は, 例えば {5} でよい. 数値そのものには意味が無い. hogehoge はラベルで, 本文中の引用する箇所では `\cite{hogehoge}` とする.

8 目次

長い文章の場合は付けておいた方が便利である. LaTeX では

```
\tableofcontents
```

を付けて 2 回コンパイルすれば終わりである. HTML の場合は, アンカー・タグを利用して目次を作成するのが望ましい. 目次そのものは節・小節・項と深くなるにつれて, 入れ子の箇条書きを利用するのが一番簡単である. 例を示しておく.

```
<big><b> もくじ</b></big>
<ul>
  <li><a href="#1st"> 文書の記述法</a>
    <ul>
      <li><a href="#1st1"> 表現と中身</a>
      <li><a href="#1st2"> 論文・報告</a>
      <li><a href="#1st3"> 記述言語</a>
      <li><a href="#1st4"> 文章の記述法</a>
    </ul>
  <li><a href="#2nd"> LaTeX と HTML の基本的な設定部分</a>
  ....
</ul>
<p>
<a name="1st"> <h2> 文書の記述法</h2> </a>
<a name="1st1"> <h3> 表現と中身</h3> </a>
  ここが最初の小節・・・
```

9 音について

HTML の場合の効果音の付け方には工夫が必要である. 特に Java を起動するような場合には, 訪問者の負担になるので止めた方がよい. 音は利用者の選択で聴けるように, スタート・ボタン等を付けた方がよい. また, 長い音楽を流し続けるのは, 目の不自由な人が利用している「ページ読みソフト」の出力判別の妨げになるので避けるべきである.

10 JavaScript について

サンプル・ソース付きの便利なサイトをいくつか紹介しておく.

- [DOKUGAKU JavaScript](#)
- [JavaScript laboratory](#)
- [JavaScript Made Easy!!](#)
- [Timothy's JavaScript Examples](#)
- [Nic's JavaScript Page](#)

なお, 中にはブラウザ依存のものもあるが, 可能な限りそういった方法は使わない方が良いのは当然である.